

実務経験のある教員等による授業科目名	実務経験のある教員等による授業科目の授業時数	講師名	職種	知識や実務経験を活かした教育内容
生化学	30	松山 裕文	管理薬剤師	管理薬剤師としての知識と実務経験を活かして、人体の構成成分である化学物質の性状と代謝を理解するための教育を行う。
看護形態機能学Ⅰ	30	川本 隆平 山田 緑	臨床検査技師 看護師	臨床検査技師としての知識を活かして、生命を維持する機能(からだの支持・栄養と消化吸収・身体機能の調節と適応)について理解するための教育を行う。 看護師としての知識と実務経験を活かして、その人体の構造と機能の理解から、日常生活における活動を理解し、看護学及び看護援助技術へつなげるための教育を行う。
看護形態機能学Ⅱ	30	稲山 綾乃 堀之内 泉	臨床検査技師 看護師	臨床検査技師としての知識を活かして、生命を維持する機能(呼吸・血液の循環とその調節・体液の調節と尿の生成)について理解するための教育を行う。 看護師としての知識と実務経験を活かして、その人体の構造と機能の理解から、日常生活における活動を理解し、看護学及び看護援助技術へつなげるための教育を行う。
看護形態機能学Ⅲ	30	大畑 裕可 羽賀田 千晶	看護師 看護師・助産師	看護師としての知識を活かして、生命を維持する機能(情報の受容と処理・内臓機能の調節・生殖発生と老化)について理解し、人体を保護し機能を保存する機能について理解するための教育を行う。 看護師・助産師としての知識と実務経験を活かして、その人体の構造と機能の理解から、日常生活における活動を理解し、看護学及び看護援助技術へつなげるための教育を行う。
病態生理学総論	15	伊倉 義弘他	医師	医師としての知識と実務経験を活かして、疾病の成り立ちは、臓器によらず共通するものがあり、疾病・治療の原因と人体の反応およびその分類と特徴を理解し、また健康障害を日常生活と関連させて捉える基礎的知識を養うための教育を行う。
臨床微生物学	30	岡本 豊	臨床検査技師	臨床検査技師としての知識と実務経験を活かして、微生物が人体に及ぼす影響を知り、感染症の原因である病原微生物について、体系的な知識を深めるための教育を行う。
疾病治療論	30	岡 隆紀他	医師	医師としての知識と実務経験を活かして、疾病の回復を促進する治療法としての放射線療法、化学療法および手術療法について、その特徴を理解するための教育を行う。
リハビリテーション療法	15	大垣 昌之	理学療法士	理学療法士としての知識と実務経験を活かして、リハビリテーションの概念を知り、リハビリテーション療法の実態と多職種連携を理解するための教育を行う。
食事療法	15	藤村 真理子	管理栄養士	管理栄養士としての知識と実務経験を活かして、栄養の意義と生体に及ぼす影響と食事療法の種類や特徴を疾病と関連づけて理解するための教育を行う。
臨床薬理学	30	西川 直樹	管理薬剤師	管理薬剤師としての知識と実務経験を活かして、薬理学の基礎知識をふまえて、疾病に対する薬物の特徴とその作用機序及び人体に及ぼす影響および治療効果について理解するための教育を行う。
病態と治療Ⅰ	30	中村 美保他 長澤 亜由美	医師 看護師	医師としての知識と実務経験を活かして、呼吸器・循環器疾患の病態生理、検査、治療法、予後を理解するための教育を行う。 看護師として知識と実務経験を活かして、それぞれの病態・治療から看護を考えるための視点を学ぶための教育を行う。
病態と治療Ⅱ	30	富永 洋一他 山田 緑	医師 看護師	医師としての知識と実務経験を活かして、歯・口腔疾患、消化器疾患、内分泌系、代謝系の病態生理、検査、治療法、予後を理解するため、また体液調節の疾患の病態と診断・治療を理解するための教育を行う。 看護師として知識と実務経験を活かして、それぞれの病態・治療から看護を考えるための視点を学ぶための教育を行う。
病態と治療Ⅲ	30	清水 富男他 佐野 和美	医師 看護師	医師としての知識と実務経験を活かして、運動器疾患・脳神経疾患の病態生理、検査、治療、予後を理解するための教育を行う。 看護師として知識と実務経験を活かして、それぞれの病態・治療から看護を考えるための視点を学ぶための教育を行う。
病態と治療Ⅳ	30	辻本 吉広他 堀之内 泉	医師 看護師	医師としての知識と実務経験を活かして、腎・泌尿器疾患、血液・造血器疾患、アレルギー性疾患、感染症の病態生理、検査、治療、予後を理解するための教育を行う。 看護師として知識と実務経験を活かして、それぞれの病態・治療から看護を考えるための視点を学ぶための教育を行う。
病態と治療Ⅴ	30	中後 聡他 山田 緑	医師 看護師	医師としての知識と実務経験を活かして、女性特有の疾患、自己免疫疾患および感染症、感覚器(皮膚・眼・耳鼻咽喉)疾患の病態生理、検査、治療、予後を理解するため、また産産期の異常を理解するための教育を行う。 看護師として知識と実務経験を活かして、それぞれの病態・治療から看護を考えるための視点を学ぶための教育を行う。
病態と治療Ⅵ	15	武井 安津子他	医師	医師としての知識と実務経験を活かして、小児期の特徴的な健康障害について、症状発生のメカニズムや治療を学ぶための教育を行う。
保健医療論	15	清水 富男	医師	医師としての知識と実務経験を活かして、医療の発達、医療体系と機能、今日の医療の課題を理解するための教育を行う。
公衆衛生学	30	富田 久子	保健師	保健師としての知識と実務経験を活かして、人間の健康を保持増進するための社会や環境と健康との関わりや公衆衛生の現状を知り、今日の保健対策の理解に努めるため、また、急速な高齢化社会に伴う医療、保健、福祉の問題、新興国の急速な経済発展に伴う環境問題(温暖化・汚染等)と健康への影響および健康増進のための対策、地域保健など幅広く学ぶための教育を行う。
関係法規Ⅰ	15	大谷 はるか	病院事務職	病院事務職としての知識と実務経験を活かして、保健医療福祉に関する関係法規の基礎について理解する(法)の概念、法令、医事法規概要)厚生行政のしくみなど生活者に必要な法令の基礎を理解するための教育を行う。
関係法規Ⅱ	15	井阪 俊彦 藤尾 泰子	医師 看護師	医師・看護師としての知識と実務経験を活かして、看護職に関わる法令を理解する意義について学ぶとともに、法律の内容を理解するための教育を行う。
看護学概論	30	藤尾 泰子	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、「看護とはなにか」「看護師とはどのような職業か」について学び、看護を志す初学者としての基本的な考え方を身につけるための教育を行う。
共通看護技術Ⅰ	30	足立 唯	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、看護技術の概念について理解し、看護技術の基本となるコミュニケーション技術を身につけるため、また、感染予防のための知識・技術とともに、対象の意思決定や主体的な参画を支援する学習支援について学ぶための教育を行う。
共通看護技術Ⅱ	30	池上 真由美	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、看護援助技術を対象の状態に合わせて適切に実施する能力を身につけるために、活動と休息・睡眠の援助、安楽確保の技術、清潔および衣生活援助技術について学ぶための教育を行う。

共通看護技術Ⅲ	30	山田 緑	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、看護援助技術を対象の状態に合わせて適切に実施する能力を身につけるために、食事援助技術、排泄の援助技術について学ぶための教育を行う。
ヘルスアセスメント	30	池上 真由美	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、対象の状況を把握するためのヘルスアセスメントを学ぶための教育を行う。
看護の思考過程	30	小林 理絵	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、看護実践するための看護過程の展開技術を身につけるための教育を行う。
経過に応じた基本技術Ⅰ	30	堀之内 泉	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、看護援助技術を対象の状態に合わせて適切に実施する能力を身につけるために、創傷管理技術、呼吸・循環を整える援助技術、死の看取りの援助について学ぶための教育を行う。
経過に応じた基本技術Ⅱ	30	足立 唯	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、看護援助技術を対象の状態に合わせて適切に実施する能力を身につけるために診察・検査・処置における技術を学ぶための教育を行う。
家族看護論	15	松本 修一	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、急性期医療、慢性期医療、エンドオブライフケア、遺族ケアなどさまざまな領域で家族看護のニーズの重要性が増しており、家族全体を視野に入れた看護の必要性について学ぶための教育を行う。
基礎統合演習	30	小林 理絵	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、看護の思考過程およびヘルスアセスメント、共通看護技術Ⅰ～Ⅲ、経過に応じた基本技術Ⅰ・Ⅱで修得した看護基本技術を統合させ、患者の状態に応じた看護ができる能力を身につけるため、また、記録・報告の技術を身につけるための教育を行う。
看護研究	30	富澤 理恵	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、看護研究に必要な基礎的知識を身につけ、研究に取り組むことができるための教育を行う。
地域・在宅看護概論	15	西山 玲子	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、在宅療養者と家族の特徴と人々の暮らしを支えるための法律や制度、在宅療養する対象の特徴について学ぶための教育を行う。
訪問看護技術	30	寺崎 玲子	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、在宅療養を可能にする訪問看護技術を学ぶための教育を行う。
訪問看護と看取り	15	藤原 真由美	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、老いや病いを抱えながら在宅で暮らす人を支える看護を学ぶための教育を行う。
訪問看護の看護過程	15	小西 純子	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、療養者と家族が地域で生活を継続していくための課題やニーズに応える看護過程を学ぶ教育を行う。
地域と看護	30	西山 玲子	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、看護の対象を生活者としてとらえるためには人の暮らしの場であり、生活背景である地域を知る必要がある。そのために地域での様々な取り組みに参加し、人々の暮らしと地域のつながりを理解するための教育を行う。
ケアマネジメント演習	15	金山 裕巳	ケアマネージャー	ケアマネージャーとしての知識と実務経験を活かして、療養者と家族が希望する生活を支援するためのケアマネジメントを学ぶ教育を行う。
成人看護学概論	30	戌亥 桂子	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、ライフサイクルにおける成人期の特徴と発達課題を理解し、様々な個人の生活様式や多様な価値観の中で生活する成人期にある対象の健康問題を理解するための教育を行う。また、成人期における健康の保持増進・疾病予防の援助と看護の役割、成人保健の動向および看護の役割について理解するための教育を行う。
成人援助論Ⅰ	30	堀之内 泉他	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、恒常性維持が困難になった対象を疾患、機能・病態と治療から捉えて特徴を理解しその看護を学び、内部環境調整機能に障害をもつ患者の看護では生活習慣病や慢性期疾患を持ちながら身体障害と共存していく対象への教育的アプローチを学ぶための教育を行う。また、腎機能疾患をもつ患者の看護では多臓器疾患との関連や医療の動向、透析治療と導入を行う患者の看護を通して、慢性疾患の増悪からシャント遠投を行い退院に向けて自己管理していく患者の看護を学ぶための教育を行う。
成人援助論Ⅱ	30	喜多 直 他	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、消化機能障害、代謝機能障害をもつ患者の病態と治療、機能障害から起こる症状に対する看護を学ぶための教育を行う。また、消化機能障害をもつ患者の看護では事例を用いて、急性期から回復期へ向かう患者の障害受容、ボディイメージの変化、退院後の生活指導を学ぶための教育を行う。さらに、代謝機能障害をもつ患者の看護では、エンドオブライフケア期(終末期)にある対象の苦痛・苦悩と症状の緩和に向けた援助について学ぶための教育を行う。
成人援助論Ⅲ	30	塚本 友恵	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、運動機能障害をもつ患者を通して機能障害をもちながら社会復帰に向かう対象への支援を多職種連携と看護の機能から学ぶための教育を行う。また、血液疾患患者の看護では、疾病と付き合いながら生活してきた対象が、疾病の再発から重篤な状態に至る看護を通してその人らしく終焉を迎えるための看護について学ぶ教育を行う。
成人援助論Ⅳ	30	木村 真佑美他	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、呼吸器疾患の患者の事例を通して、围術期にある患者の身体侵襲とその看護を学ぶための教育を行う。また、手術前・中・後の患者の変化から予想の視点と術後の合併症の予防とリスク管理について、ゴードンの機能別アセスメントシートを用いて対象の疾患・病態生理から対象の状況と変化を捉え個別性のある看護を考えるための教育を行う。さらに、急性期から回復過程にある患者の退院後の生活を見据えた生活指導、急変時の対応などクリティカルケアについて学習する教育を行う。
成人援助論Ⅴ	30	長澤 亜由美他	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、現代の救急医療の現状と救急医療システム、初期対応とアセスメントについて学ぶための教育を行う。また、循環器疾患患者を通して救急搬送時のアルゴリズム(検査・治療)、症状に対する看護、包括的リハビリテーションと退院に向けた支援・退院指導を一連の看護展開の中で学ぶための教育を行う。
老年看護学概論	30	清水 弘子	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、老年看護の対象を理解し、老年看護の動向と機能と役割について理解するため、また近年の社会構造の変化を理解し、老年期における人々の保健・医療・福祉の動向と対策について理解するための教育を行う。
老年援助論Ⅰ	15	岸本 早央里他	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、老年期の特徴と疾病の症状、病態生理を理解しおもな治療および看護について学ぶための教育を行う。
老年援助論Ⅱ	30	清水 弘子他	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、高齢者に起こりやすい症候・疾患とその回復過程を、高齢者の特徴をふまえて理解し、回復に向けた援助について学ぶための教育を行う。
老年援助論Ⅲ	30	岸本 早央里他	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、多様な健康レベルにある老年期の対象とその家族を総合的にアセスメントし、対象に応じた看護を展開できる能力を養うための教育を行う。
小児看護学概論	30	寶毛 良子	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、21世紀の小児看護を担う人材として、小児を理解し、複雑化・多様化する小児の健康問題を社会・家族の広い視野から洞察し、子ども人権尊重を基盤とした小児看護のあり方を学び、小児看護の実践に活かすための教育を行う。
小児援助論Ⅰ	30	橋倉 尚美他	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、健康障害をもつ小児と家族が生活・療養するために必要な看護を学ぶための教育を行う。

小児援助論Ⅱ	15	長澤 亜由美他	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、小児期にある対象とその家族への日常生活援助と、対象にとって安全で安楽な療養生活が送れるような小児看護ケアを学ぶことで、小児看護に必要な知識・技術・態度を身につけるための教育を行う。
小児援助論Ⅲ	15	長澤 亜由美	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、小児期にある対象とその家族の事例を通して情報の整理、看護計画の立案、実施、追加、修正のプロセスを実施することで、小児看護に必要な知識、看護過程の展開の技術・態度を身につけるための教育を行う。
母性看護学概論	20	増本 綾子	看護師・助産師	看護師・助産師としての知識と実務経験を活かして、次世代の健全な育成と、性と生殖の健康について理解し、女性の生涯にわたる健康の保持増進に向けての課題や看護の役割について学ぶための教育を行う。
母性援助論Ⅰ	30	宮崎 貴子	看護師・助産師	看護師・助産師としての知識と実務経験を活かして、正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦・新生児の理解と看護実践能力を養うとともに、ウェルネスの視点で対象に関わり、適切な時期に応じた援助について学ぶ。
母性援助論Ⅱ	15	羽賀田 千晶	看護師・助産師	看護師・助産師としての知識と実務経験を活かして、子どもを産み育てる過程において、特別なニーズをもつ妊産婦、新生児への看護を学ぶための教育を行う。
母性援助論Ⅲ	30	宮崎 貴子	看護師・助産師	看護師・助産師としての知識と実務経験を活かして、妊産婦および新生児に応じた看護が展開できる能力を養うための教育を行う。
精神看護学概論	30	木村 幸子	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、人間の心の動きをライフサイクルから見た発達、環境との相互作用から見た適応について学習し、こころの健康問題の発生のプロセスと健康の保持増進のための看護の役割や、精神の健康と精神障害者の歴史と法制度を学ぶ教育を行う。また、対象の精神的安寧を保ち、安楽を促進する技術について理解するための教育を行う。
精神援助論Ⅰ	20	杉林 稔	医師	医師としての知識と実務経験を活かして、主な精神疾患と障害の原因・症状・検査・治療について学ぶための教育を行う。
精神援助論Ⅱ	30	長嶺 洋子	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、精神障害者を理解し、治療的人間関係を学び、精神疾患の症状に対する援助や状態に応じて自立を支援出来るような援助方法、精神障害と身体疾患をつなぐリエゾン看護について学ぶための教育を行う。
精神援助論Ⅲ	15	長嶺 洋子	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、精神障害を持つ対象の状況に応じた看護を展開する能力を養うための教育を行う。
災害看護・国際看護	30	森田 佳奈子 山田 友季子	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、災害が人々の生命や生活に及ぼす影響を理解し、災害サイクルに応じた看護支援活動および看護の役割や国や文化を超えた人々の健康に関する諸問題について学び、看護の国際組織について学ぶための教育を行う。
医療安全	30	世古 真紀 佐野 和美	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、看護医療事故の種類と構造を理解し、事故の危険因子を減らす方法について学ぶための教育を行う。
看護管理・看護倫理	30	植田 みゆき 西原 伸美	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、看護におけるマネジメントについて学ぶため、また医療や看護現場で起こる倫理的問題について学ぶための教育を行う。
看護の統合と実践	30	佐野 和美	看護師	看護師としての知識と実務経験を活かして、看護実践能力の主軸となる看護実践の技術的側面と、看護実践の問題解決的側面の到達度を評価し、看護師としての課題を明確にできるための教育を行う。